全蘭集

中村俊定文庫
文庫 18
735
1

金葉集といふは万よの
春に照花の栄垂りしを
かゝる家字書に名えゆりそう
中にも蕉翁の俳諧百余章を
あつめし北国の清は一集を
写し伝へて邦俗中に実にせし
せしか故に越の耳井に
さはく二子梓行に志ありし
かの孫は其事を遂ずして
久しく世をさりければ
予南無庵にありし僕くそこ

[illegible]て好ちよ集[illegible]
念ふを拾ひあつめたる
写のあやまりをもかくし
言葉のうるほひを千
年ぶりにかみて[illegible]
かくはかりにきみちよ
ちてふたひらあるをも

文化丙寅春

みちのくの南部

北溟識

凡例

一編次ハ大要[illegible]序を考へ又
[illegible]月を[illegible]ハ風調と
[illegible]

一異本[illegible]遠[illegible]其後
[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

○[illegible]

一桃青芭蕉と記し[illegible]
[illegible]其時代を
[illegible]

一[illegible]人乃
[illegible]

白雪とうたくさとは世はあるてす
子孫をもたる吳を[illegible]
一方仙服方とて[illegible]菊の白きは
一巻を畧し[illegible]
一附句集[illegible]
歌は其作[illegible]
一松[illegible]の雅吟方仙は奥州大石田と
[illegible]
晋流[illegible]有儒[illegible]東都[illegible]
[illegible]
巻[illegible]
[illegible]
[illegible]
一吾[illegible]江津の方仙其所は[illegible]
[illegible]

中の秘義なる[illegible]茶樣の發句を
服中[illegible]
四句目[illegible]
及古乃中[illegible]
一[illegible]
方仙は松尾の[illegible]
[illegible]
里圃の句[illegible]
句[illegible]
人々古代の[illegible]
言久[illegible]
や巻[illegible]
撰集の時再[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

院法井　可井

目録

月乃春秋　一

右百顔

旅人と家名　四　[illegible]　五

あつてさや　七　松風や　八

右五十顔

松のむ　九次

詩あきんど　十

[illegible]　十一

風破口や　十二

附[illegible]　十三

時ハあれ　十四

[illegible]　十五

冬来や　十六

[illegible]　十七

星祭や　十八

[illegible]　十九

雲月や　廿

[illegible]　廿一

炭賣乃　廿二

[illegible]　廿三

初雪乃[illegible]　廿四

京まてハ　廿五

海苔[illegible]　廿六

竹の木乃　廿七

栗稈[illegible]　廿八

[illegible]　廿九

はくしと　卅

[illegible]　卅一

初あきを　卅二

[illegible]　卅三

何とハなしふ　卅四

蕣の　卅五

秣夏[illegible]

中村俊定文庫

風流は　三五
さしもの　三七
絵てゝや　三九
そゝゝや　四一
ゝゝゝく　四三
蕊咲て　四五
紫陽を　四七
衣裳して　四九
かきゝふの　五一
うゑりて　五三
市中ハ　五五
蔦の葉も　五七
月又ゝ　五九
外かゝや　六一
洗足て　六三
色〳〵は　六五
久方や　六七
末日て　六九

右　仙

原生家や　三六
五月雨は　三八
あつゝ山や　四十
庵尋の　四二
むゝ泊り　四四
窓て　四六
柳小折　四八
蛍や俤よ　五〇
いさゝ供　五二
柳葉菜　五四
灰汁桶の　五六
今日斗　五八
きくても　六十
ほ切て　六二
ゝ故さゝ城　六四
杜若哀　六六
夜の子ゝ　六八
あ多ゝ　七十

貞享三年丙寅正月　其角

日の春をさゝ雀の歩みかな　文鱗
御ゝゝゝきゝの相撲哉　枳風
雪村の柳ゝより揮ざして　コ歌
酒屋の慌に入る迯の月　芳重
於の忌を来れゝの香薫りん　杉風
炭竈こ稼ゝ冬のこゝゝ　仙化
里〳〵は麦不のゝなるむゝとゝ　李下
新米　駒よ　面おほひきよ　峯白
朝すゝきゝ三宮を洗ひ乃ハ　朱絃
忘仏ゝ形ゝ俺ゝゝくゝ　蚊足
沽ゝゝ連歌の器ゝちまち　千里
敲家を来ゝ　松乃夢　邑蕉
有明の梨打鳥帽子ゝゝゝ　巣
深世乃夢を　宴のゝゝ　鐵
悔ゝ　南の木槿乃霧ゝ　角
後位女ゝ　ゝく　丹　乗
山伏ゝ　乱を吞猿の面　枳
食を　甲斐乃米ゝゝよ

法の士京利繁を理こ立む
をつうしの記をこれ川が仲の戸
さく月う車かそゆる色の陰
はしをを小雨とをゆるかあろ
砂寺殘る車山よの路しく
靜うふ靜くく蟬をうる音
屋寺うぬ寺うつるかはけ
を夢あう眉と恋を長く
墨子咲くく情はんゆる宿うあ
蓬ゑ乃部仁ゑ矢巽かよ入
加乃そをよ代をる狐ゆる
あれ自然の巽しかうき
ゑ乃戸極蟬ゑ代ゑ位徳く
我こ代乃力井能治
彩孫八金ゑしく松の
迦仁の四柱ゑ陸ゑこん
庭翁くゑ陸ゑ春ゑ
松よ蓬代湯乃浦意ゑう
祝繁ゑて人の姫をめ連て

枝 蓬 化 白 下 角 蟬 角 舟 枝 蓬 リ 白 陰 化 陰 星 角 下

陸勒乃堂ふ却ひ井孔
待宵の陸い陸る草代中
ゑよ蟬乃ゑうきの
西ゑ人そいや
門を魚ゑを
理ゑを物ゑを破像乃寺
あくを物乃市呂撰ゑ
勝の三多夕日と月よ改めて
仁乃能屋秋家ゑなう
稲妻乃ゑ代乃ゑを
つを仁ゑ三
人あゑ年ゑ
海ゑを撰ゑ仁ゑを楊
代ゑの武仙と
ゑう仮ゑる
玉川やおのく
仁仙くゑ
乗の色代ゑ
仁ゑこと

枝 蓬 化 白 下 角 蟬 角 舟 枝 蓬 リ 白 陰 化 陰 星 角 下

南むく菊屋の細乃雪消て
釈と春をうら川きのつきく
候很るなしの度毒をおく金
鬱うり買ものるく秋のうらう
庵乃雪を思いをぬくもすつめ
あくき男乃新年月
宮乃西彼七里をぬ長ん
伊勢河内の色れ川つ
の車軍つく雪ハあ〳〵〳〵み
毒ハちうをの院〳〵城宝
二月の菫菜〳〵すきめたや
師徐牛乃おそき日の新
胃あハぬ誠乃縮を織兼
おもひあ〳〵を貴れ州さ
菫の際をちう〳〵を雪て結る
木魚吟拾る山陰丹〳〵も
図をやう〳〵体むる釣の月
義さ〳〵あと長う法きあい
宮一河雪と花は君と付く

不ト 鏡 根 高 法 ト 下 水 角 千春 秋 里 高 凡 鏡 下 秋 ト 春

ちなう〳〵安〳〵安ハ悟のう〳〵
三度ふむ有の橋左隆山
あう〳〵ハ去ちう草の花を金
傾城を立きぬきのふとし
待ふく雪ふ立ふ雪れう川イ
井海き無ふ雨れよ明かう〳〵
梅すき 若〳〵ちき匂ひなりう
む〳〵雨ふ石乃竹ふ金消え
地とう歌の神も志川うり
伊勢を立る月ふ釣日れ色鏡き
撰ふう〳〵く〳〵く橋法る あさ
伝長乃法ちる世やはやん
庵士とよれ れ〳〵ふ の兄
あふ牡丹千里れ香を金く
きまむ岩れ湯をき
岩根ふく立き地雪と高を
ワ人や三井乃あ法保れ
多ぬ立う〳〵なきやつ遠ふう〳〵
食法をちはれ青ハ法る

白 新 峡山 化 下 鏡 春 山 角 秋 化 ○ト 下 ト 里

足川の庄山よりはるかに海をのぞみ
千年をへたる歌枕の名
あい川流れたる川作り　風
をなしまはしたる雲北白鷺　山
清蓮乃七夢より繁る花白く　卜
連歌くり返さて久しく　白

十月十一日俳別会　芭蕉

旅人を家名ゆかしん初時雨　由之
亦さらん笠を着ぬ　其角
鷄鳴乃山ほと無のみ残り　枳風
雨をかすりて山陰に露　夕鶴
うゑけるらく芝生の家に海鼠　仙化
新し蓮華月はいとやさ　臭児
中乃秋画工一つ書なる　観水
紛てしてあるる薄舟　全峰
非坂や次第よりくき波の音　荒雪
齢と成しに乃　秀う雲　紀年
酒のさよ軍乙女達の並居く　芭蕉
卯月乃雪と掃るつく森　之
練つる袖つくはう軍陣川　角
蘿一面のうの橋　風
そさらぬ星よ旅をとうま月　鶴
月中や嘶うん泊瀬の童人　化
菅竜庵く白ひて敷ろうく　崎
おもと雪事と郡山傀儡

遠年まもる東の亀を表して
沖こく舟よ名さ[illegible]ハ誰そ　之
花ゆへよ名の付く波を時ゆ　雪
別ち屋と成て琴の音　峯白
竹の軍ちそ一字世のかよへ　の
萱代ぬ事めの雪と舞く嵐　化
花の身乃滝音ゆ袖よ[illegible]　之
君流されし一筋の軍当　葛
的芳ハ千浮の松とうそく清く　白
舎とあり舟よ這よ鱸　角
都ゆく[illegible]あつうん海のさ　雪
ちゆ沖ちと形を有内　あ
蕪や石を巳坂の日にほれ　峰
小畑さいしき常山子仏ん　阪
子の子乃ちと活倩よあ子ル　葛
ちゆ乃ちと味よをゆる　白
薫乃ちゆ子面白さ久生み　化
嬢うそして氏乃ちと　角
乃牧野て留吟ゆ音夢　峰

偉ちハしく獨よ[illegible]秋　陽
見苦しと文字代子昇を嘯て　角
境乃みしき置とあしゆ　雪
恒家や言葉出の夜の文りそん　あ
後ち出く海苔ちゆ　葛
岩陰き日うしハ色の茅のと　白
夢ちゆ乃あり　夢の山雪　之

嘉しき宮や小松吹萩薄　芭蕉
霧を見知りて影うつる月　コセン
踊る声淋しき秋の数ならん　小枚
よし此あたりと宮の夕暮　竹卜
寺一露やあし跡ありかさ深き　荃生
あくしれ牟もし鳥一羽　志格
波あしき礫子華しうち出を捨ひ　夕市
雨もり御讀の品をどくし草ふ　枚益
多磨川松もり打くる次ハ去り　観生
気合朝しく物くるを名る　亀良
榛乃村さくハ笑ま藤のくの也　枚
草をとむむ灯や此し夜の月　蕉
夕雨乃ふ見色乾り含うる了　卜
子を蒙清るも雜かし学　枚
侍の夢みつき社命なり　コ
そろ盤卯ふ走漬乃母とする　記
洞まされ月まて豊の光しく　格
波さらさ愛くと贄くはふ　市

鶉鳴く色懼乃扉やかりくらん　益
笛面白くはし気る遊　生
桜まで色よ彦をむすひ曲　良
ぬるむ清水りし流の黒米　格
春霞龍捲さりしに冬ちて　枚
うらちくう雪に嬉敷　ありき　市
一樵よ折まさくおの受三日の月　蕉
秋の霜おく影眉のうた　コ
富ありし房をか神の御室なる　生
急ぐりしよせくる雲くもてん　卜
忘れ草声のあれ乱うへよかなり　記
君さくねし　清雨乃板蔵　蕉
阿弥陀ありも幕とうかし　幸家　枚
宮塗の古寺代志うき拾しき　良
寿けく年代良ハ古字あなり　コ
夢思くの種のせもしそ　記
大さハ物すな金まつらねし　蕉
庵よりアんひる町の白壁　益
御杖ふれ皷をうへて涼しかれ　蕉

菊流しても以ふ中るて以ふ　ト
古き無筆のえしくさ悲しき　市
なまなか乃情し罪やあさかん　コ
むとらもがけしく咲ると金滴　画
たれかし芽しく我と友　説
うたれ渋の家も崩るき石あり　良
うらくくやちりきれの山　枝

暁や雪ちらすきめく藪の月　園風
煙と潜る檜のけしき萌　梅頼
唐土も人気き雨もあく居て　木訥
かかる杜丹の花と屢めくり　士芳
歌くよ閑なる事のよ下思る　良品
扇の角をつかを笑く　風麦
春よ何の蘚絵乃鞘を捲革て　芭蕉
たか川雷し将監ヶ簔　木白
馬の舞かまへ手中を折梅の花　家
おこそ総をと志め纏のうけ　配刀
伊せの海よこ川悪禅が鳴さき　友
敵乃首級たくふたれ　風
村くと宮の莚りさらくまで　芳
錆に門徒とさるかしれ　不
遣り出し今後の酒甘味　諸
月と名好の衛室さあし　力
蛛かや露よ積萩の生茂り　風
ふと手ちらしれ座の花鉄葉　麦

きれくに染て衣鬘が脈拵て　芝
おしかけられし傳授の汁　芳
此花の庵を高むる今も見ん　白
肩に指ぬる作の早蕨　家
討る雲鬢にこぼれん里帰　風
数々衣も綿縫遣し年の明　麦
葬礼に出ほそして年に気之　不
女喰ける竹の戸の内　芳
後朝の妻の子に餅を配られ　芝
背中へ負て弾くられる　云
討負る猿の巾着傍うちき　家
手をとりてくるる強飯の臭　力
弁論めを堪へく烏帽子傾て　白
洞をふるしや捨つ壁　球
七夕にて髪をかける潔服衆　風
家売るく世をあしきなき月　巣
柿の木に杖を垂らしつ不動つく　麦
雛てすかもし名や紅葉の宮　芳
修行者の猫迷いくる峯伝ひ　凱
小本の星形包む村雨　云
宵の風勝ぐ吹もらん　球
松に一本山入り縛く　風
乞食して花にまかする疏書　芝
雑子みく遊びていさとすき　芳
来るる年ほろく酔のおくれて　力
思りの方に山吹を摘　麦
伏しろハ火を燃なき宿値を　不
家ぬしの来て琵琶の名を字　云
汁をく菖蒲の隣子を汁　芳
月の塵吹て世よ夕暮　風
月の前志をし身を灸き　系
雄をらく恋のいさくひ　力

元禄七年九月廿四日　芭蕉奥行

松風の手酒をすゝめ茶を
乃そかゝふく石垣はしら　猿雖
町のつゞら折庵の花紙こゝ　芭蕉
きてもゆるゝ乃雑と月まる　雪芝
廿日と、そくまゆゝ月くと　惟然
世山うゝく　奥州くまの　車貸
簾おろす宵の風ハ切うり　里翠
涼くあつまりとうくと利　秀
夷講俗乃とうをまさぐ　雖
喧嘩の中を通ぬ川のゆ　芝
仕合と矢橋乃あを雪ハ人さ　苔
あやけと鎌の刀の書う猫ら　翠
ちゝと信ゝ蕎麦つゞ長く　袋
大工屋根やの梅ハ寄すき　苔
用の五ハ六ハ雨もむ敷さなり　秀
面乃隠日ハ雨ハゆるやゝ　芝
除雪を拾ふ雪ハ泉　帥
親と叫ぶ宮ゝ　考

月新よゝ乃ゝ西ゝ七先念仏　翠
ゆゝ乃ゝ　雖
嘗ゝ乃ゝ　秀
仮ゝ乃ゝ　芝
牽と猫乃ちゝめ乃雑ゝ　帥
門俵乃笹ゝ　苔
乃河の門乃さゝ入ゝ　秀
一里ハ雨ハ波乃ゝ　雖
山ハみゝ客樹の名ハ黄ゝ　翠
日月乃ゝ　芭
四方ゝ乃ゝ月乃物ハ　秀
亂乃こゝ乃ゝ　芝
傍軍乃ゝ　帥
者ゝ　苔
小倉とハ白ハ食の下乃雨　秀
先度の隠ゝ人ゝ　雖
ハゝゝ日ハ鍋ゝ　苔
歯ゝ　雖
潮と今ハすゝ　翠

うちんの葉にいかりとそ吞
法華をよろこ[illegible]
こほろ[illegible]
[illegible]の葉酒平と尼の業
何し次第は牛代殺法く
枯もせ此姫[illegible]
月見は竹をし造作ちゝ
なるを四〜〜とする秋の風
濱乃小家とる[illegible]
懐[illegible]
いそなる乃秋は[illegible]
雪隠の言ふ歌くあの枝
相撲法ひは嘗の時

考　紫雄　芝　師　考　家　紹　仲　考　師　芝

家松〜〜の松とてみめるを寄合
かゝる東門の海土人示寄〜〜
松の宅合奉乃は東の序分
沙平代弥を新〜〜ゆく妹
風中日乃ち〜〜るうれひて
月所に乃八雲は[illegible]
碑八只何ゝまの世もみち
世と〜〜かゝ紙屋し筆当
比〜〜や懐乃海ぬ〜〜成煙う
東ふ矢ふ乃爰おろ〜〜絵
一緒ゝ〜〜の同代家の中
この明〜〜は清る曇て
い〜〜は東の付〜〜神のぼやく
石なき川は本賣流彩〜
連〜〜孫を〜〜森有と石の家
月ふ恵を〜〜の面ゝ
影〜〜の好き八矢〜〜あやまち
乃乃は我〜〜手代住所
ゝあきハせゝきと事代住所
妹乗とて〜〜えぬ世芝

面白乃稲穂も面白き雛の皮
凡性よりかりかりいまそかりける
幼云めハ位まあ久くるる情ふ
みを者世ゝ詩の多形
憂ふて付ふ此鶴ふ寿世
位く山と遠とろ正 児
霜光原ゝ伊原ゝ鶴 家の月
紀念の神ゝつむ 稲田
百頃屋此花槿 家ふ咲つき
捨ふを捨ふ原ゝ 船江
狗 偽ひ紀の貴之 ふ酒響て
額一ゝ ゝ 拾ひ みるゝ
おれ ふ此位乃 ふ や 畑の 古
金乃 ふ 後ハ ね ゝ
妻の 弱 おの 乃 新 ふ 振 琴
吹 書の 袖 ふ ふ ふ 兄 弁
松 弁乃 寡加 ふ 買 人 字 書 市
房 ふ ふ 晩 乃 雪
太ハ ふ 紙 拾 吟 の ふ

詩あき人と年を貪る酒便れ　其角
夕ゆ日ふて かる馬　雑色 芭蕉
平張き夫ふ 風を 由 ふ ん
三線 人乃 男を 伝 ふ
月ハ神ゝ ろき 鳴る 撥の上　角
鳴乃 羽 ふ ふ 頭ハ 泥き　芭蕉
聊ふ 伊を ふ ふ の 神 層
ふ 山 時 傘 を 兼　角
無 行 の ふ を 蔦 小 後 ふ て　芭蕉
指 場乃 雲 ふ 月 の 後 を 恵　角
一 ゝ 沢 里 の 在 京 ふ の ふ 頼 ふ　芭蕉
新 ふ ふ ふ ふ 歌 ふ 貴 ふ　角
保 ふ ふ ふ 恋 の 霊 と 吟 ふ　芭蕉
う き 世 ふ 沢 む 寄 ふ 食 の 便　角
酒 ハ 茶 貧 重 ふ ふ 人 係　芭蕉
ち ち 伐 の ふ ゝ 北 妹 下 ふ ん　角
貧 ふ ふ 俳 偕 大 ふ ゝ ふ ふ や　芭蕉
緋 ゝ ふ ふ く 庵 西 頃 蒜 ぬ 月　角

蕣の乃迫つく作よくつさめき　笈
角くひやんく苦うく長　角
吟く苦令　繪れ小紫　角
思翻く絡ーおくく甘う乳　笈
枯蔭鬢栄嘴の角どまれん　南
麿神と使ちと荒海の磯　笈
務うれ猛き世くく　角
緯　情よ　妊（ヤトル）ろあ　角
山宝くく四　雖の茶をあの法ふ　笈
うつ心消く格　乃竹　角
乃日后朝をねさ自と安　笈
西風をあやよ自むあやみく　角
気いよ変埃竪ろ　吟凋凡　笈
みちのく代考ちくぬ　石幼　角
武士乃羅の丸條ちくく手　笈
八宝の弱乃雪紙若ちく　角
徇あきんと苦と令る汚傷　笈
書湖白苦く生　冷　笈

苦ようき世　家酒白く食思　そのあ
洲を　ちと陽　岩代瘦一晶
寒四く寒警夏を徇ろん　花雪
寺ふ礫と多打　庵毒キ角
身と汚と汗の英を芦剛く　冠茶
作のさくなよなこ釣新　筆
琵琶法の雨ーー釣の時晶
朝ろ毛ちろ　ふる紙杰
浪人の遠山る紙諸おなーぬ　杰
夏奴乃一歩よ入ひそるる　雪
義さて回ー宗旨と拓そひる　茶
房毛退之ろ行童と奪　角
家香代考川稿角と呼ろん　呉
沒てる　徇て解乃　故
仮嫩の陵と接ー紳代ろ　雪
羽ろよ角とかんな用泥雄　呉
化ーの惰ともく苦の月　角
破蕉　語ッテ　待のよと次　茶
雪

朝顔は西瓜を睡ら遠ひ
つくし　ちるぬ日乃松浦汀撥　芭蕉
ちつ乃あけやく　くの萱庵　雪
蚤と私乃書　我の世　素堂
帷入ぬ新ハ六十の前すて　角
御所は加せうく世と者と　芭蕉
人の懸炭穂長の青代厨ふ　晶
松田ゑび有き　雪の曙　雪
きさ乃しや陳中ふ似を新く　角
山野ふ乃く俳と會ろ　素堂
盗み弁の身ふ伯者の足あふ　芭蕉
とくさハ武士の憤草　角
ろろ〻〻武敬手と有やを金掩　素堂
炎ひさんやそ〻海ろ鬼　雪
鯰の庫ふと母ふさ乃ぬく　芭蕉
つひふ賢ふ有ふ乃ぬ〻〻　角
苔ふ栖庵山の列と乃ひん　素堂
柳ふさ乃ぬく瀑布ろ酒呑

仙家乃れ〻〻　芭蕉
月の面ふしてみくもむ

彼岸ふ日新やろろ乃夕涼　芭蕉

煮茶ヲ蠅　避ル烟ヲ　素堂
合ル歓　醒ス馬ヲ上ニ

かさ去ろ小田乃爲乃　芭蕉
月代見ル金氣ヲ　芭蕉
露繁添フ玉ヲ涎ヲ　芭蕉

法加ろ為手有ろ群の中　芭蕉
幢と去ふ有ふ村弁　芭蕉
掣テ帚ヲ驅ル倫嵐ヲ　芭蕉
田面炎去ふ乃風御堤屋　芭蕉
ろろ〻〻ぬそかふろ柘の榎　芭蕉
氣と乃学ふ代何と多見ル　芭蕉
舟ハ鎖風早浦　芭蕉
鐘ハ絶ツ日高川　芭蕉
新ろろ乃苗の泥もさ乃　芭蕉
食ハすけぬ故を出の新　芭蕉
詫教ノ三社本ナ
韻使ノ五車墳イツエ

花月丈山閑に　其
偃をおつく老がらひは　嵐
寅銀鮎一寸　其
蕎麦の滝や玉を爰にあ　、
朔日新頭の掟をかやし　、
凩飧喉早乾　嵐
よ〳〵つる秦の笛あつく秋きて　其
内ゟ火と宿に夜の夕月　嵐
霧籬顛墜　其
霰浦同潜　嵐
ふとんきくよ暁に郷古の香の夢　其
いすれぬ絃乃枚珠と緑亢　嵐
山伏山平地　其
門番門小天　嵐
鵜鶏窺水鉢　其
雲はよろめく鳴る霊やも　、
勇泳ぐ初漱の葉其玉に吾をみて　嵐
臨谷伴蛙仙　其

秋風

時節さそ伊賀の山叡花の香　桃青
身ハこゝと三ふ露あむ武蔵野　、
底質の哀さ新婦にまあまて　風
こゝやかしやう多き連波　、
露白緑すハ名将の月をし　各
たれしこハ続ハ八つか七ツ乳
麻蒼反側の席に夢を見て
昨日の涌とよる母ときれ
法雲の清く字は瓜さ払帷
親仁が業の山下風の
古人の松もひこる境杭
朱弓銭深く村雨降れく
探出る篋の雲に秋れ月
京かし御礼初丁の琴
伏見留あまれハ秋の風
かこいをとるふ手枕の露
一生ハ起る元の欠き家出
世をうきあまかろしてま

ちりぬるは郡の辰巳山見えて
物の手とゞきし寺々にな
御賛に立名を包む縮の功
伝ともむすぶ編笠の紐
若しき公の中そ気取る
小川さゝる目にきゝの志る寄
又猶つゐに遠き法師家衣
いさごを跳立庭の靴
森とほゆく秋深き月ぞ旅衣
三里半の比朝霧
追剥によもあらぬ祇
うけて流るゝた力風の茶
茂家の柱にかくる干
面やくろうやとそあてるらん
清めたる手摺の幕の香新
火縄のちりの一二寸程
何ぞに緑掃る花の跡
江戸は上野の空の春

貞享四年

時ハ秋吉野をこめし旅のつと　露沾
雁ともねに風雲の月　芭蕉
山陰に刈田の白いはおきひろく　沾蓬
武者追詰し小川の水　其角
ゑひかゝる宿は流るゝ横さまき　嵐雪
とゞきぬ宮の桜歌く松　沾荷
傘の画をもくかゝらぬさけそ　蕉
祭むこし神山代氏　沾
暑き日乃汗を拭む様の袖　セシカ
捻したのよそかゝりける　蕉
引手ま衣ものむかし法も新く　角
髪ある俗に纏つゝきゆる　雪
竝とり藤くて山の奥深し　沾
吉はる毎りとと白き風薬　荷
月清く白雨洗ふ御簾の様　蓬
あらと流るゝ乳てゝし鳥　角
花咲くくてまゐる其の竜　雪
額板馬らぬ山吹の橋　セシカ

伝院政やあらの磯の妻洗て　浪法
磐井うさうさ香海る　乃　蓋
橋乃宮ふ家文幸と出給て
井ゝ　伴を　まあのさうな　口カ
和歌ハ西ひ宮をきふ月清く　セニカ
琴を写ものもう夜のあさう月　蓋
智ゆく世後とふる秋の雨　男
九穂ゆひさて尾上ゆき　浪
月の雲なゝ小嵐秋のいなく　蓋
大口ゆゝる　庭の雲　掃　蓋
夢ゆなく塩の雁立ゆ東窓　浪
能ゆう篇を編ゆ生法乃　セニカ
一袖乃形ゆの東家勝ふ雲　男
名を聡ぬつき敏のゆゝひ　浪
西ゆひく続ふ　ゆの男つき　蓋
ゆゝし秋の浮る雲物ふの雲　セニカ
袖徴宅の秋乃をさ打く　蓋
仰の水乃生ゆゝる　歌　枕筆

ゆゝ　勢四時社ゆゝ　桃青

磨雲は続ゆ信　言の雲　柏　紫
ゆ家庭乃さ　申るあうな　柏　紫
時く小松笠歌る月やゆく　言
家ゆ生ゆゝる山のゆあうひ　言
秋雲く月雲き岡のひゆ教　言
つゆゆ　ゆゝ　ゆゆきひの　紫
肌雲く雲ゆ雲ゆ鶴と鶴ふみ　紫
こはゆ蟹の乃ふ　浪乃　言
乃ゆる続雲鶴小ゆゝと　紫
ゆ水　ゆ乃境　雲　言
古畑ふひうゆ麦刈く　言　紫
和歌の夢や聖ゆうん　青
松月ふめ　歌ゆ雲ひ秋の風　紫
家ゆうの　歌中　義ゆ家月　青
歌中　義乃花ゆ　ゆ　紫
泉ハ西ゆく人をすきめゆ　青
世界の廿八雲乃名ゆ　紫
家ゆ泉ゆと呼ゆ法ゆゆ　言

朝霧よくまれく傳る繼子の發　玄
ゆゆしくうる坂乃高うけ　紫
乃河の一雲乃河原妻ひく　青
あ〳〵ふ流む彩の秋深　紫
初興いく度こけく紅なるう　青
初夏とまとの夏ひて高る花　紫
鶯原く種もむ春と医うと　青
塩越玉笑乃傳色乃花　紫
干ゆもむ杵も仙る垂をく　青
縣乃聲の　青　紫
秋山の仙物と告る春くよ　青
乃ひとをちと州分る　紫
優婆塞の西屋節る文傳く　青
前人新色　紫
英草よぬき紫いを雨の春　紫
乃桶の乃る　紫
西月乃玉紫よるる武咲く　青
雲の袖は敵うつなう　紫

冬京や人をかゝぬ市の杵　酒子
ゝゝと連入れ乃を其角
年れ貴たゝ頁乃仙して　芭蕉
次と焚舟れ早ゝき文　仙化
磐うゝ松おうゝを磯の月　枳風
挿ゝをんすた一むら　子
太刀拍る音のあれて寂れ　化
車のゝ人ゝ流む玲むし　子
弱来る友引地秀草くもく　角
姉ゝ仙よいち高いろいん　風
く浸枕と添てれうて　化
沖分合此日やちきかん板　角
賀茂川の家を胸乃大ほさん　角
萩ちゝ家市系のほよ　蓉
賜の等る杖ゝ夕まれ　文鱗
牛を彩ち月れてさ　子
花の日と新バ乃もとかれ　李下
桃ゝ風う一玉の研　風

和歌賢者とかたる人ハ永久えて
何の沖ゝ絶て僅を
杖ゝ沖や古石の庵ゝ沖とのゝ
んゝて婚寸いくゝせれゝい
ぬつの時久ゝハあゝれのさゝゝと
ゝ伝ひゝけ 納を言ゝ沖れを
行里の庵をのむすこ角入て
伊勢おゝひゝつゝ鞋菱笠
天流ゝや拾ゝけれよハひ
杖ゝを破る切籠杖ゝう千
月入て橋寄ゝふ角すこく
ゝゝけ労と言人やさ未
塚の下毎ゝかゝん杖の角
邦と軍ゝゝゝゝゝゝゝゝく庵
それのゝくゝるゝつゝを待つゝて
す餅とゆゝ月白ゝ

角下 芭蕉 化 下 芭蕉 化 下 芭蕉 リン 子 芭蕉 化 下 芭蕉 角 芭蕉 化 下

ゝゝけゝを伝かゝよ稲葉山 梧桐
ゝれ家殘く言けれ名ゝゝゝ芭蕉
鮫の庵る里の垣根よ餅とゝて芭蕉
桑のおゝゝ庵ほそ言ゝゝゝ越人
あゝ此の杖ハ人のかゝを道笠
みゝゝゝゝ杖の入ゝ俗秀 舟泉
住庵するあゝゝ人を言ゝゝん 壁水
苡よなゝあゝて竹 渡 村 杖
彼衣ゝる魚色ゝくゝゝて 蕉
あけ髪制 ゝゝゝゝゝ 芋
殘ゝて金ゝおゝんゝゝかゝく 人
ゝ杖とゝゝゝ蕉 伐 やゝ 笠
雨ゝゝの烟ゝゝけあゝゝゝ 泉
硯ゝゝくゝて杖の毋 水
糸ゝゝゝかゝゝ月の下 杖
ゝゝ目のゝゝ肩けゝゝく 人
思ひゝ待ゝゝ堂のむゝゝ 水
遠ひゝく庵のゝゝく来ゝ 泉

青〳〵やうやうぬるのを囲まて　笠
碎てちるか山　桂乃うく　蕉
夕ゑ八頃をうぬ菖蒲て　兮
り水ちるかさまれ思ふも　水
直ぬる木陰の馬乃かうれ　蕉
すゝちまき〳〵　茅れろし　桂
ねるけき八給をちさして　人
女師走ゑ月とちきるふう　兮
雲の日乃きわるる湘おくば　水
笑焼塩つるれてほろ〳〵　笠
砂糸の川乃ちうれ会ふて　永
扶て牛とハ拾ふ約ゆく　水

貞享四年　芭蕉

星羅乃雪をとよとや宿ふ　乃　煙火　安信
私　閑の扶　蕉　乃　煙火　安信
築山乃奇ふ徒よ梅を植ふ　自笑
梅ふ子猫乃ちまる蓬徒　知足
蕾乃麦畑を祝月のわの之　業言
器のあるさ乃堅と迎まき風　如風
一里ゑ毋ふの拾ふ川上ふ　重辰
初さゝめく門ふ乃ふ　言
市へおく志ゑ〳〵ゑと師走れ　足
牛ゑ袴ふて寒さ乃ゑ　信
秋白乃寄ゑ乃ふ　風
月を掘ふ乃ふ　蕉
言　級ふ甲とふ　笑
流ゑ初ふ宇治乃橋古　風
菴似る西行笠のあ乃ふ　足
家本鳥のゑ乃く　信
ちふ家ふ会財を　辰
やゑ代義ゑとふ　足

辛螺うち油をうち磨ぎ
角あれば眉うち化粧をする事
扮青乃みを養さく惜の門
扉わぬ美よ桜あつひ
瓶なくて砒石ようひ蓋ん
度をゆつもし家のつ者
武日代日をかさみをさく
御ゆさ弟代あれ川口
様手は頭をみる人をみ
美扮あつ川貧火乃新
初月よ弁里乃姫の灯夏
磨ちよ移く前油初く
約束よつきハ語の箱寸
あうれ屋なめかみる
山人乃底宝をみさをさう
雪竜いくむれの来る
四と返をあうる山名を宮
表乃ゆう清とうるの教

阪 芝 言 阪 信 足 阪 辰 意 笑 足 直 辰 笑 言 阪 信 重

お半墨

物語かの身八年寿半 似るの
生うやとうしるなの山名事
有ば乃を始よ 海屋つくさく
叩しの義と 野水
約新の深うしきの句ひろ 篇兮
白代ちうしの堂と弟と刈 重五
亦竜八留よやうかと あうまて 杜国
賢そやまをもの者の福 正牛
いつうれ清しと気を与り抜 か
きえぬうしるまうハとなく 笠
新法の味さむく少と蟻く 土
あるハ留よ生えし空家 意
田中なるこの人ち柳 篇るうろ 宗
義よ石も川人ハちんそう 兮
ハうろと撫よ 頼る内曲し 水
儲さうしる町よりも 宗
二の尾よ近藤北面の盛さく 土
妹ハむくよとうの異乃 か
京

糸緑に簾透皃あからさまなれ　五
いまぞ恨の矢をはなつ声　兮
ぬす人の記念の松の吹おれて　蕉
しばし宗祇の名を付し水　国
笠ぬぎて無理にもぬるゝ北時雨　兮
冬がれわけてひとり唐苣　水
しらじらと砕けしは人の骨か何　国
烏賊はゑびすの国のうらかた　五
あはれさの謎にもとけし杜宇　水
秋水一斗もりつくす夜ぞ　笠
日東の李白が坊に月を見て　五
巾に木槿をはさむ琵琶打　兮
牛の跡とぶらふ草の夕ぐれに　蕉
箕に鮗の魚をいたゞき　国
わがいのりあけがたの星孕むべく　兮
けふはいもとのまゆかきにゆき　水
綾ひとへ居湯に志賀の花漉て　国
廊下は藤のかげつたふ也　五

荷兮
霜月や鸛の彳々ならびゐて　荷兮
冬の朝日のあはれなりけり　芭蕉
樫檜山家の体を木の葉降　重五
ひきずる牛の塩こぼれつゝ　杜国
音もなき具足に月のうすうすと　羽笠
酌とる童蘭切にゆく　野水
秋のころ旅の御連歌いとかりに　蕉
漸くはれて富士みゆる寺　兮
寂として椿の花の落る音　国
茶に糸遊をそむる風の香　五
雉追に烏帽子の女五三十　水
庭に木曾作る恋の薄衣　笠
なつふかき山橘にさくら見ん　兮
麻かりといふ歌の集あむ　蕉
江を近く独楽庵と世を捨て　五
我月出よ身はおぼろなる　国
たび衣笛に落花を打払　笠
篭輿ゆるす木瓜の山あひ　水

宵とみし坐に酒をすゝめて　蕉
　乞食の蓑をもらふしのゝめ　兮
泥のうへに尾を引鯉を拾ひ得て　国
　御幸に進む水のみくさひ　五
ことにてる年の小角豆の花もろし　水
　萱屋まばらに炭團つく臼　笠
芥子あまの小坊交りに打むれて　兮
　おるゝはすのみたてる蓮の実　蕉
しづかさに飯臺のぞく月の前　国
　露をくきつね風やかなしき　五
釣柿に屋根ふかれたる片庇　笠
　豆腐つくりて母の喪に入　水
元政の草の袂も破ぬべし　蕉
　伏見木幡の鐘はなをうつ　兮
いろふかき男猫ひとつを捨かねて　国
　春のしらすの雪きよきを　五
水干を秀句の聖わかやかに　水
　山茶花匂ふ笠のこがらし　笠

炭賣のおのがつまこそ黒からめ　重五
　ひとの粧ひを鏡磨寒　荷兮
花棘馬骨の霜に咲かへり　杜国
　鶴見るまどの月かすかなり　野水
かぜ吹ぬ秋の日瓶に酒なき日　芭蕉
　荻織るかさを市に振する　羽笠
賀茂川や胡麿千代祭り微近し　兮
　いはくらの聟なつかしのころ　五
おもふこと布搗哥にわらはれて　水
　うきははたちを越る三平　国
捨られてくねるか鴛の離れ鳥　蕉
　火おかぬ火燵なき人を見ん　笠
門守の翁に紙子かりて寝る　五
　血刀かくす月の暗きに　兮
霧下りて本郷の鐘七つきく　国
　ふゆまつ納豆たゝくなるべし　水
はなに泣桜の黴とすてにける　蕉
　僧ものいはず款冬を呑　笠

白蓮法師出世と成し
宣旨かしこく勅を被て
八十年をこゆる今童世にて
なるのさちそ也
曲直よ樣ものつ世世とさ
業代あるよ本朝吉
如の家よ貴族世とくる
約束に霊をあ山の月
をかなる四月よ
陰英雄の乃
寅乃日の月を般治の
きかうそ南京北
いのきしそ
源よあら乃きう
弼すら陰花
物云のうう
ゆ代さなく
祈り月夢と

お半墨　壮四

陰えうくゆう海寸霧乳
こむや　時くりあのいなつ　重五
歯弟の夢を秘物人の左百く　野水
わの市門とかし　あらのとろ　西蕉
馬業掻あつきに風のおうすく　荷子
第代湯昔とう　堂の乃方　正平
うしたよ和すむ婦うつて
蟹ゆ老　ゆ月なきひとう
春萩のすゆ力と撰ゆ春
蒿麦ず人当し　法安楽の坊
九月夜四六ら乃橋南しく
和花買みらよ
吉ちの陰のつさ
春野の月すう
より紀すて法源の
御浴する奥
駿ゆる乃月ん
不形草乃

富六反

うれしさは嘴の雲雀ちるくと　蕉
美濃代るる乃神の御さかし　兮
とさきさや大剣の橋けなかなけ　野
庄屋のまつ川とよみくだりぬ　兮
捨し子は笠川七そのひつん　水
晦日とよむしき売る年　杜
宮の庖丁の國の荒つしき　兮
襟うり高雄か斤袖を絹く　蕉
あるんと橋と棺よ香むさん　五
故子のひとつは名ところ緑　野
三ヶ月の東八陽く篠の夢　蕉
婦人のうら浴ふ野の人足者　水
憂かる事をゆりくえせを放る　野
数なき念仏藪を屋ふる　兮
のけすすき行纔ゆる起凭く　水
おもひも川も秋の帯引　五
沈のれ花たよしね花のけ見　兮
乃代空の白綾霜も松ありく　蕉

おも影

はつ雪のことしも袴きてかへる　野水
霜にまだ見る蕪乃食　杜國
野菊まで尋る蝶の羽おれて　芭蕉
うづらふけれとくるまひきけり　荷兮
麻呂が月袖に鞘鞁ねたりけん　重五
槭葉どもまゝとる負紐の窟　正平
句と撰る浴秀の田螺あつくなく　國
栗乃きいらいも張只なきまなく　兮
床あく室て河豆えいさくなする男　写
孫さまさけ乃根のこやし　笠
足としし疵をとちまる地かしなま　水
明日もうさ筆まくひ送りもん　土
小三太よ盃と一きひらうら麁　蕉
月を迷がき　牡丹ぬる人　野
縄おくのかぶ八木うまき磐葺く　文
出川くし　枝ど地蔵切断　写
初されの世とくや嫁のいふを見　宗
うる緑いくしの中そえかへ池き　水

桃李に併せ生ける福寿草の名
うくひすを欲く感ぜしめ給へる
藤の花の花の柿の葉の帯さしの
三絃の音の破の軍人
乃すすめ奉る新年の葉を言
福さえ〳〵のさそも七十
奉加めれ四霊を金うらの
いと川の傘は下帯のまた
蓮池の蓮の子の蓮の
おとよ子つゝ落根をも武
月よりそ所唐崎の髪は帯
遠もぬ きぬ 臨 侍を川
秋桜の虚さ夢きく花のさ
夏は実つゝ常夏川ち
彼ゆう祝をひさ山ゝ
部とゝ典侍の房の門侍ち
三ケ花 鶏 鶏尾長の香いき
〳〵 つきむ 越乃福浦州

芭蕉 あ 土 芭 ひ 土 ひ 芭 あ 不 芭 ひ 土 ひ

（明治廿四年の句集に見る所なり）
（此句集は芭蕉翁の句集なり）

京まで ゆき なのそ〳〵や雪乃そ
千鳥 ちゝ〳〵く山海の月 蕉言
小蛤 あ先と あ〳〵 袖ひて 知足
酒 ま も さむ きつゝ 年の風 加風
川 ゆ〳〵 琵琶乃袋を 折 掛 安信
僕 ち おく〳〵く 牛 いそく し 白葵
ゆ川 ち つ 反 嘯 の 鶏 唱 法 を 重辰
明日 乃 命 は 仮 ち 方 信
つ ち 糸 形 と 明 方 ま 山 ち く 笑
結 つ く 而 あ ひ ひ ち 蕉
そ の ま ち 別 の 後 を 一 ち ひ 足
な ち ち た 所 く 鶏 の 鶏 杉 言
髪 ち 川 り 熊 乃 神 の 蕉 ち つ く 蕉
り よ 癒 歩 く 秋 ハ 藤 苦 し 風
的 簾 の 命 よ た ち こ を ち む 月 の あ 信
楊 枝 す ま の 秋 ち ち ま い ち ま 足
小 袖 〳〵 京 の 風 を ち ま い ち ま 辰
こ ち 〳〵 猫 の 子 を 抱 ち 切 言

うさ耳をとられてはすゝきも断ぬ　足
父乃いくさを郭公の声　蕉
松かけにもこし艸ある浪の声　笑
鯉をとめてよ鶯ごゑもうひ　言
静かなり亀は針目をはなれて　信
三夜ほしする勅代かゝけ　䒾
山吹の車は夕暮の花を荷ひ　足
蟋蟀しく宵をとらゆく　凡
滝は倦まれ情の鈴虫　美
枇杷くらて蕎代ききむし　吉
衣やれて月はむらし此翁なり　蕉
老の糸こそて流そらん蕎　辰
雪解のましく情の蝶乃声かけ（付二声）　信
陣乃仮屋は墓を作る径　凡
山寺もりよこ声する角の鐘　足
身をとらてけるん杜宇鳴け　言
窓豎みを集る寒雪
沛然かゝる神垣乃梅　筆

尾張の国あつたにまかりける比人々
師走の海見んとて船さしけるに　はせを

海暮て鴨の声ほのかに白し
串に鯨をあふる盃　桐葉
二百年我此山に斧きて　東藤
樫乃種まく秋も暮にけり　工山
入月に鵜乃音もはるゝそら　葉
かゝる夜国は雲原中　蕉
時雨もる老の母の涙かな　山
一輪咲し菅菜は窓　藤
呉は工夫二日営る園をめて　蕉
園に摘みし桃咲かゝり　葉
呉芝は河原遥か兼好　藤
花表をけし我松乃入口　山
笠脱て衣のや身に纏り給る　葉
秋のうた乃人渡り　蕉
きとひの跡此浜の月涼しく　山
雪はしつは鍬を出入　藤
忘れる石の扉を押ひらき　葉
美人乃形漆むらけ給よ　山

蝦夷乃舞衣をきせ婦ともを偽て
生海鼠干ほすを初めとし
本式のまま西は御堂に集り白
藪小くらやの十七さうの由
ほつくと炮烙仕ほうの
弟子共なり　病の咀嚼
不二乃根と笠男くちふ蕨
蕨を切鶴乃仕ようをしむ
御堂は鶴をとりの日蕨
夜の法くゆ性蕨のをと挿
月毋くゆ斗乃寄ハちうて
椿を急く消くを乃寄
波を立る白足をとをまをう
言籠の縣り白髪仕をま
紅葉乃庵盛は菜の為を後
ちいさ家京式寄日の仰
夜西乃彩数を鮭箱ひ巻く
青年ちほを乃の撮打

道　茨　山　茨　茨　紫　茨　山　紫　茨　道　茨　紫　茨

何の本式をハ為ひ
夜は船自を倉むうひを　音光
夜深き葉の指当椿く　又云
二葉のすくきに蕉　徐ろう　平菴
有時乃紙をとをめ門つを勝延
深さ色ハなうう新の油火　法星
釣棚は蘭の夏の書ゆく　光
門ほそめやする田の中式　瓦
山城　茅く清め　稀有の神の汗　菴
わつ〜ゆさ良をく　む熟つき　云
母のくちきに飯乃彼生ほ　茨
蕨は色ちつきく　湖茨つ　延
蘭ほそは酒さ寄を和ひの人
陣乃仮屋は俺のこをして　光
白ちをのほまをて教つし　巳
ち〜色くほする田の初稲　唐
減る角を賊き筵の芝ちく　云
登は志くほく指ひ人生く茨

神仏はやとうまとなぬる法華の門
仏事（ぶつじ）は法華経にしかじ　光人
法華経と池のあやめを打ちまて　延
水鶏と鳴く　あつき　玄
たたこ吸角のあとの　蟬　庵
あつけるものは　とて　義
ひのこうを　楽乃一を　ぬれて
釣乃糸　浦ハさひ　くう　光
夏ふく　玄　表は　ある　秋の　蛍
ふくる　風は　紅書　吹　ある　延
夏ふく　秋　あの　月と　ふ　人
ふくとすさむ　家の　ゆ　なき　蕃
親ひとう　第は　舟　ゆと　歌つる　光
ゆ川　初　此と　第は　代なし　直
物　と　保と　ぬ　ぬ　ぬ　て　正
ゆ　こ　む　掉は　紅　琴　く　玄
と　の　風乃　ら　法は　玄　と　り　撫め　延
短　冊　に　こ　を　弁　垣乃　夏　人
ゆ　す　み　つ　ら　え　ま　て　ま　と
む　　　

のくさまきつ八ちまあひのかし旅く　芝
本百垂しまする垂まあるる　及
名思きト紅つまきまかしこあう　深
如竜打抑すこきタ雲　井
さ夕くの乃雲うとうくる月の新　人
人一代の恋と　その　滝　蓋
拾しまの代狂もしむしまを　江
紅さ紅くあきて新さあいハに　人
情そしつきさしまくくあるる　及
下戸とみくあるる雪の紅おす　写
日咲乃毒と紅ものたとくこの　蓋
嫁をめむ世めれ代眉加て殿　深
志のひ雪よすくさ有江坂の奥　及
姫こさやさ雪れれたのとる炎　人
明あき紅とまきくの服立く　写
るみと等り本ス武江　蓋
花よまれすを代蓋よあ出面　深
簾をりもにるる紅乃夕五る　如

行くと枝のむれ社てちる
ひくう系を指義のひくう赤芭蕉
日新山旅るの離とれくまて叩搭
清水をすくくる掘枝る月黄口
れりろき世ろる鉦責ろの上東森
花けらやもる接ろをほる工山
ろる紙る都のきぐ出付く　蕉
雲ろる大津ふこ井の続く　搭
雪をくく後の焼う社とくよ　山
庭ふり野ろにみれそち　柴
杉風の答ふ泊と欲つくし　口
俳と刺む西若れ信　森
鳥ねむの繋きぬ女ふまて　搭
庭とくく彼る新点の月　蕉
枝ハ折くく味ね答いろ　柴
氏るの太夫わくきくれの　山
彼ふする霧の背ふまれるて　森
信千寸放切のかつ信一石　搭

笠おりて立ちて一ときの夜男　蕉
又その塔のほとりほとゝぎす　桂樹
鬱鬱鎖れ花を抱の岡まで　惟
風ふき出て木枯しく〳〵の寺死　梨
ぞうして朴の屋葉を引抜め　山
田舎翁ゝ知る人ぞ寒ゝ　春
打ちくゝまれの寒をとちくく　に
たれて天をしたる冥より　蕉
紙の衾ふ一鶏惜うせく　梨
おほん傳来の時を吉ぬ　山
鞋鞋の東乃寺は月清く　春
桂子の栗ぬ行をまよくて　惟
俳諧てまゝ供村の秋乃を　蕉
家を忘れかなるの庵ぬ琴　山
あれまの家和妙て鳴る井ま　春
入日ぬ紅乃星ぬ鳴ゝとつ　梨
まちの仕ちけつゝむのおく　蕉
ばくしの衾ゝ西行　樹

深川の夜　鶴人
屋ゝ多ゝ寒川ゝ深ゝ小ゝ　蕉
酒ちひなゝ鼠ゝ山ゝ月　芭
義ゝ夏後ゝ霧寒ゝ　蕉
理ゝ寒ゝ秋ゝ夕ゝ　人
鼠ゝ巣ゝ大ゝ五ゝ石ゝ　蕉
隅ゝ市ゝ人ゝ　人
仲ゝ事ゝ世ゝ八ゝ是ゝ名ゝ利ゝ　蕉
醫乃多ゝ寒ゝ　人
ぞうと師ゝの京ゝ高ゝ　蕉
秋ゝ夢ゝ世ゝ俗ゝ市ゝ　人
世ゝ里ゝ古ゝ雲ゝ蕎ゝ　蕉
足ゝ鈍ゝ雨ゝ　人
きぬゝ雨ゝ乃ゝ　蕉
ゝ野ゝ　人
ゝ月ゝ　蕉
ゝ月ゝ　人
ゝ雲ゝ　蕉
ゝ月ゝ　人
ゝ者ゝ　蕉

人　意

人　意

人　意

人　意

人　意

人　意

人　意

人　意

人　意

意

意　辰

足

風

安宣

自笑

風

足

風

笑

辰

笑

宣

足

牛歩

[illegible]田の橋まハ青〻〻〻

尼ちの夫る陵くちの
汐アなきれハ小のくれふく
ゆくりかれるをを付久しくなる
布板二ホ板ハさをして
陸れし妹とあつ人〻寿
会麦米をわひて法ゆ
膳之のんをむされおをや
寺人髪剃ゑ鴨川水
塔のをゑ昔の衣を身を付れ
かてきかひをのまくるる
月夫の人大猫と消くすう入
ちのをて夫をとおくれ杖を
山橋とゆをて泊る方の井
山ひきむして夫ゑ和る
をてけて了役ちく弓太ク

つくをむゑ成る家の
義のゆを枝や

尼 陸
ち 夫
人 ゆ
分 ア
直 布
聚 板
泉 二
水 ホ
相 陸
人 れ
分 し
直 妹
聚 と
泉 あ
水 つ
相 人
ち 寿
弱 法
相 ゆ
水 ゆ
寺 ゆ

何とハなりよ何ゆ〻家〻墓物
編笠一きて雄聽張る叩端
四環ひふ猿ゑ幸のあるゑ相系
公家ゑ宿ゑ夜外の中ゑ
月雪ゑ雪の夜相ハ読せく
酒飲む蛾のいふ蛾ゑき
双ハ乃ゑゑを文ゑ出ゑ
聚れ瓜ホ む 紬の梅東
鬢ゑ生指役ゑ蛾ホ
聚て文のホ 岐見ゑ細
種指ゑ色なる蛇を加さ沙流
藝者をを乃月代罪
面ホの指女の秋代夜ゑや
郷風と志代の乃鈴ちら
川流行鈴と角ゑ強ひく
金利ゑ儀ゑ猫日ゑ川ゑ
雪ゑ乃の庫乃ホ久し
相織ゑ酒を勢ゑ横屋

文政

何 編
四 公
月 酒
双 聚
鬢 聚
聚 種
藝 面
郷 川
金 雪
相 紫

[illegible]　宣
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

麦食よ嘗招く友奇〳〵爾　雪
される　宮〳〵　陸の青芽　山
やゝ月火の如くなりよりうる松の枝　芳
出るときそのの舟のむり　面　宮白
乃心のとゝめく鄙きぬ之の墓　竜
遊乃乃く　麻の子を植てり　義
中の秋宮　源有る件を切り　雪
三　伝ちうく　蒔を　雪
うきゝを　繁くハそる月の　白
大勢　家くあそ　秀
一年や二年　の小袖　内
枝子　若　比叡の山風　水
ところと　ふ　衛　江
春を　神ハ伯父の新　雪
知乃　妹　とうゝ　雪
機〳〵　書　誇
うきを　多　陽　雪
　　　

おのゝ羽よ雪ある蟬乃小車（イ二葉）　梶
日傘さしたる人讀みくちの花　帽
衣を捨くうろ蟬世の中　梶里
酒の名を谷乃杉ふも仏さ　道
猶人　陰　酒乃松明　良
蓮成さ代の日の長閑よ　梶
袁の遠ゆるよ　赤の汗そき　梶
日中代綾つゝ（イ二氏）　帽
一谷乃蓮（イ二かする）　良
乞食とも去てゝ　杉
泊乃地蓮よ　道
蓍代樽ハ張の源や深ぬん　帽
流人柴州　帽
なでゝ又約日と深むの上　道
蓮の　帽
奥の滝の　道
奥の風雅　良
二　帽
す　良
鶴　帽
秋　梶
生蓮　良

奥州岩隈郡相楽伊達
寺にて　芭蕉

風流のなゝ名やたくの田植歌
いちこ咲ける　杉
ありせきさく立藤乃花ゆ　帽
蓮乃　道
一蓮〳〵月よ益ゆき川柳　帽
月（ユヒニ）雁（イ二日）や移ゆ　良
勝の女ゆ上臨会仏よ重と浪て　芝
世とゆ　帽
ゆ世ハ婦ま　良
樟乃中枝ゆ　道
根こてハ嬉う畠　帽
雪（イ二ゆ）（イ二後）張やすゝ白髪おけ　良
酒盛ゆ軍と送る軍よ来く　道
秋とゆる　帽
ある夜の蛍実酒る　良
畠乃仏の法ゆる月　道
多く代祈と　帽
かなゝ貴と　帽
月と殺てくれと　良

山吉代尾は　ゑみ　年やむ　ふ
片城そう　法水つめ　策　新
蔀門雪車一　ちの　話　広
おのく　武士　代　竜　宿　義
年とぬ　ゆ人　の世　あ　新
文　ら　ら　ら　ら　広
の　松　細　ち　ち　義
何　ゑ　事　め　七　新
位　る　宿　柱　月　広
ま　ま　む　六　見　広
地　橋　校　ま　ま　義
太　心　法　み　の　新
さ　ま　酒　ち　こ　広
敷　生　石　乃　こ　義
色　き　ま　ま　ま　広
酒　乃　す　の　碑　義
六　代　後　そ　く　人　広
琴　的　ま　る　か　知　新

元禄二年卯月廿四日
篠井孫三郎宅にて　芭蕉

陸奥やめ　て　ぬ　を　新の栗
ま　よ　栗　乃　と　る　栗　広
切　為　山　の　井　代　名　貴　く　当　新
蜂　伝　ひ　ま　る　石　代　桐　た　一　黄　広
当　う　る　と　ら　栗　よ　月　と　見　の　ま　た　等　を
黄　屋　乃　秋　い　ま　と　さ　む　し　ふ　須　年
梓　ら　夫　の　羽　乃　素　を　ま　と　て　素　藁
願　年　を　と　ま　る　あ　ろ　き　の　芳　義
松　薗　乃　よ　ま　ま　ま　る　ま　の　芳　秋
酒　乃　き　恨　を　ま　ま　ま　ま　ま　新　良
尊　へ　な　詩　よ　ま　て　ま　ま　ま　良　栗
さ　ま　く　送　ま　る　傾　城　の　家　栗
ま　し　き　を　神　よ　う　む　る　掬　き　年
月　の　発　法　と　神　よ　う　む　る　掬　き　年　栗
特　し　て　風　弱　為　し　て　風　当　新
益　乃　陽　と　す　る　あ　し　の　し　林　秋
梅　よ　ま　く　初　形　や　古　代　と　六　を　の　時　義
う　も　の　る　谷　よ　初　敏　打　く　く　良

丈草

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]門の武威をかてる風和
[illegible]てよ玖すまの山庵さ
[illegible]紙よ又百計の
[illegible]白月れ百て
[illegible]町端の後掃たち
[illegible]死を忘れ為秋又の
[illegible]月枯の謂たく
[illegible]内素の性よ入し
[illegible]萩垣乃川を
[illegible]墓よ和り秋
[illegible]傘えやほも
[illegible]掘竹さく切の
[illegible]坂穴の底よす
[illegible]肌て宇味よき
[illegible]はりよれ
[illegible]ぬもゆね医
[illegible]茶咲て
[illegible]他国
[illegible]

又月面と集てやし
[illegible]岸り蛍と
[illegible]阪島咲
[illegible]里をむ
[illegible]牛乃
[illegible]の雲
[illegible]俗美と
[illegible]松むも
[illegible]永樂の
[illegible]美とあ
[illegible]たきの
[illegible]阪面
[illegible]美上
[illegible]頭の
[illegible]あかる
[illegible]作り
[illegible]茶の
[illegible]恒堅

稼ぎ村ハ浮世の外世界にて
カ持まち　甲賀乃一軒
むくら垣へ毎年冨屋
ものさびしい別ち松の木
星ふる数小白もちろくと
集りて遊めの月をとる月
廉第よ世ろのくと　塗本殿
業壹よ出く家孫わ出ら
ぬ咲床信を豆の多ろ
多くく百ろ毛第日の雑
古人乃友を語とろう
あらた傳出る　あの富合
言みを師走の市代名ほそ
煙掃の日と第　竜乃宮
なきくと古き情盛ふ了れ
やとも鶴のまつ　八相
平清くに明日し雑き峯の
山田の稔をいろ

荒　良　の　栄　良　荒　の　栄　良　水　栄　良　荒　の　良

羽ふ小と第竜して後を開よ
ろ重打ふ用打　芝民
ろ　ふ　ふ　ふ

金沢の寺も一昨日あるべきよう
なれども乃部は豆腐もあ
叶富は先あさましやと答物て
霜寒かうゝ化粧うつくし
遥きハ月を泛脂を氣紫紅
雲くゝは女をうゝ勢くゝ
千日の滝をもむせる小松原
姫は乃ゝと踏法のもと高
刀を嶽のあるゝと長生つゝむ
おもゝく家々き女郎もむそも
吟ずる月を切絵の窓ゆかゝ
温泉ゝそ家懐鬱の秋風
和丁乃浮ゝあるゝ懐
山越ゝ作る冬のふきゝ
尼衣男ゝまゝれゝゝるすそ
切かゝゝ家れ法き橋
花の時鳴ゝ家ゝ吟ゝ
鶏乃墨ゝ去れ山麓

良 蓋 九 切 良 蓋 九 切 良 蓋 九 良

出羽酒田乃孫伊東不玉高ゝそ
袖乃浦江上光甲

あゝを山や吹浦ゝ
海松刈る極ゝ
月おハ羅屋かゝん
土もの竈乃帝ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
婁の玉と橋ゝ
高屋竈ゝ精舎の
ゝとゝゝゝゝゝ
海原ゝもなきゝ
松笠松ゝ武隈の
家枕おゝ武意
ちゝゝの神ゝ
仏供ゝゝゝゝ
代世乃ゝゝと
物ゝの妻帯ゝ
そゝ命と鳴の
叩ゝゝ花ゝ義
鶏乃麓の森ゝ

不玉
帆遥
ゝ良
帝良
色松
玉良
ゝ高
玉
良
玉
蓋
ゝ
玉
良
蓋
玉
良
蓋
玉
良

知ぬ人を恋しく哀の風
すさまじ滝の流る山路　道
剃刀の跡つ戸ぢきする無常　良
棺とおさむる塚のあるを　玉
そつ雲はうしなき光を隠し　道
えひ寄の衣袖ノ〳〵そ泣　良
昨日ちの花盛丁を偽せ生て　玉
月さへ人をとき陣中乃市　道
山寺をとの著うれくるは庭一流　良
小袖をうを送る戒の師　玉
家鳥の母よ似ちゆ〳〵　道
鶯よハあ〳〵ぬ家ハ〳〵ぬ　良
家ちの乃家孫伝〳〵る古今集　山
あり射切る坊乃酒ケ　道
雪代菓を立そ山る羽つひ　道
碧稚うこきて第をよれ　山
称を似て古き恋を乃乙　良
こ〳〵れ色をこの心を遊　良

羽黒山本坊よおのく異別　芭蕉
有難や雪と薬〳〵に風の香　芭
俗ちん人乃むちを夏草　芭
川舟の綱よ蛍を引ちく　芭
鶯の声の絶よ二日月　芭
泥ゆよ乗ちる秋の風　珠妙
小も南をきぬさおりう　梨水
吟ねむりて星もみをる蛍哉　芭
百里乃旅を本重の牛遅　道
山つくを知よ塚の記とかゝ　九
斧柄ちく む神本代枕　良
家ちの絶ちひ月夜ケそ　芭
豆うく男蕨を伊と寄く鬼　九
古古家をちなく桜皮青　道
糸よ立桜よ多〳〵代藤　水
月乃ちと門紀乃てちうな　良
髪あの多るうの家　道
まつちしだのかゝよ色打て　九
的場乃寄ち哨ち山吹　芭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫ちと重とひきそるる事のれ　流
累なき恋ゆゑ　なりぬるなさうやゆ　清
袖も炉煙もまよふ　雲　風
ほさんの事風不乃　柳
尤俺の心小重　遠
武士みさを八東　西乃門　良
おのつゝ奉こ時なる奥代京　清
四織よ清　寸　草　指の月　流
秋夏く　指　柳
う多し　流　清
意格を半と行る　風
出陣の旅よ　遠
事る信所の者も　清
ちふまく　寸　流
ほゝくしの石のかとの崩　風
ちさる　山も　面の表　流
咲ゝる　おとたな袖　清
寄ゝ　い旅姉　清
　　良

元禄二社義紋花ゝて山中
温泉ゝ坂の西の三丈　ゆ校
ゐて　蕪　坂　ゆ　く　ゐ　ま　か
赤壁　み　ゝ　山　乃　ま　ゝ　め　重　良
月　命　と　お　樓　よ　待　踏　ぬ　さ　く　邑　遠
朝　ち　ゝ　と　や　ゝ　く　あ　ゝ　校
き　閑　よ　桃　の　苑　四　水　代　書　良
紫　ゝ　り　こ　ゝ　た　巻　代　毎　百　遠
憂　後　た　り　の　山　八　憂　の　寺　校
歴　女　四　ゝ　人　四　全　ゆ　ゝ　良
義　ち　よ　寸　ゝ　ち　ま　ゝ　て　遠
髮　ち　ち　ゝ　ゝ　と　奥　く　八　め　校
蓮　の　糸　ゝ　ち　中　く　く　飛　後　良
ち　紅　乃　ち　と　後　く　ゝ　る　門　遠
有　四　の　糸　代　上　産　か　ち　く　な　る　校
家　ち　川　柳　よ　獵　乃　ち　件　良
秋　風　八　和　云　ぬ　ち　て　添　ち　る　家
白　さ　ゝ　ち　ち　の　続　く　華　紙　校
十　枝　の　ち　八　四　ち　枝　の　町　俗　良
ち　ち　と　紙　ち　る　云　仍　の　箱　遠

元保二年九月
二十日 お美 男

路通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きさらぎや彌生もたそ　夕
嵐ふいふら雪ちる比の星　良
笠ほそ毎日ほ宗祇の墨　夜
世こそ宗小弟と雪まつる　通
久出くるの世ほの鏡　芭
孫うゝ橋へあるひとう雪　久
たゝときハ無住寺の門ゝ　夜
某のつゝくよほしこれ　西
田を買ふ僧くもちさ来門　蕉
火吹うゝ乳表入口　夕
夕月夜夜を後よ法きちて　良
そらくゝ寒き秋の岸燒　松
谷城ほ新酒を春とよろこ　夕
ちや さ世ほ神き梯上　海
ち腐ゝ忍ゝを後る鈴ほ　之
表も加けく一ちのあ　蕉
雪庵ゝ後ほ月ゝ古低ほ　夕
こてみこゝちけうきの陰　執筆

三月廿日即興　芭蕉

流ゝ七日雪ほる禁う糸
惟ゝ妹乃わ細橋　清風
足踏ほを去ま寒ある夜き　峯白
糸一筆とはうる軍の戸　竜良
乃月ほ隣ち ねゝ　コ舟
校ゝ ゝ　甚角
里雪深をふゝハ蟬の叩家て　風
岡命乃下向　白
すゝま立行ほの使れるめき　白
一夜のちきり　蕉
松ほに白乃ゝほ　角
ほゝ橋ほの乃ハゝて　風
新歌ちまめ歌を世ほなけき　良
ゝ　世
雪を初櫻や捨ほ春ゝゝ　心
如乃ほ　角
吉川ゝハ温泉泌醒を用ま　蕉
三川世ゝ席の一つ吉と春ほ　秋

[illegible]ことと軍よりまうらるる物すき茶[illegible]
男子うまれ出ぬ[illegible]
膝栗毛 [illegible]
涙あり[illegible]
牡丹ちり[illegible]
[illegible]
[illegible]

むかしの伝 清よかる秋の風 蕉
石見なる寺と云ひて 如竹
たのまれ 蕉の弟子 清みなり 玄来
長崎にきる 相俊の文 化
山面とつめひくあるる紙の新 蕉
きの田に稲をうえて中のうの風 蕉
平めなること 蕉 清みの物 来
給仕をさきく百姓食後 化
月をさきの塩梅を 来
聖吳桃 ハ ほとゝきす 化
君のうちと 踊のあるとおりけさて 来
きくうう かとゝ玄来の俳軍 化
集をといそ 蕉 ゆるうう 蕉
みれと 月 命のよ 雲 蕉
蓑 松 命の咲こほれ 来
四 人 百 俳 なり 化
我 町の子 の 磬 古 絶 蕉
いつも まよ ちう 世の中 来

塚 原 とこけ かく 成 乃 若 か 玄来
笠 松 下 悔の 帝 ちる 寺 浪化
歩 荷 拾 子 振の 人 を 呼 く 芭蕉
聖 と は 仏 乃 ゆ き 蕉 之道
半 時 ほと 夜の う う る 月の 入 丈仲
乃 け ち く と 繰る 粥 を 反秀
新 に 菅 這 う 教 秀 信 お 惟秀
足 井 と と よ 足 を あ の む る 野童
切 ち く 畠 見 浪 を 丹 波 山 野内
う う く あ 生 ば う 物 来
寄 合 を 縁 乃 ち 乃 ぬ 沙 法 半 乃
い う よ ち ゆ し の 紙 の ま 仲
ち く う う 関 を 茶 振 く た を 中 秀
こ う ち く と 鐵 く 乗 の 茶 秀
砂 川 乃 ゆ く 流 る し 夕 月 歌 童
家 ち る し ち も 粽 み ち く 内
百 ち の 赤 乃 ホ 陰 乃 庵 屋 物 芝
菜 稚 お ほ ち 小 西 と 陰 く 生 来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仙　蕉
書　来
考　来
蕉　牛
書　来
牛　芳
来　蕉
芳　仙
仙　書
蕉　来

衣裏して梅改むるあけぼの
嬉　名ハ〳〵しるハ人ノ枝　前川
掃ふ[illegible]ふる雪[illegible]興ずん　路通
ふ乃雪[illegible]ふ[illegible]ふ　芭蕉
月稚る[illegible]乃[illegible]と踏あく
ゆ[illegible]さ手狩の[illegible]る　草畠
姉ヶ子の[illegible]ふ　秋の風
茜除て　宗[illegible]　[illegible]
あらきなく[illegible]ふ　[illegible]
る乃和信る[illegible]の[illegible]さよ
振ふ[illegible]ふ[illegible]ぬ大の夢
聲[illegible]ふ[illegible]を断ふ[illegible]
多[illegible]の酒乃かゝ[illegible]に[illegible]
月[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
物[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]おさな[illegible]
[illegible]の[illegible]室の[illegible]
[illegible]菓[illegible]婚の子[illegible]

川　西
蕉　良
良　川
川　通
通　川
蕉　云
西　蕉
蕉　通
通　蕉
蕉　西
良　良

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄二仲春

嵯山孫右衛門

ゆきの長

久を祈の新屠蘇より川野辺

あやさ〳〵くるはるの里の高

松ヶ崎まうでのあゆみあるて

効しを仮初の袖の積のこゝろみ

いさゝひも荒し磯より吹来る

初とかゝれし其乃秋

義京は雪よりぬきても面白き

納涼 嵯山

又月すゝ小袖の御て服あつき

おらしう髪を結そう〳〵

こゝらかくうのくるもあるう

本そう〳〵すしう文のやはらか

夏とそゝるよりかれまさて

長寿一人日待つゝ乱れ

その高き富士の雪とそふきの名

桐の木〳〵之 長陰 乃家

多ひくるまの東八角とを

彼ハうたをの海しをとゝを

所岩代傘をもて

多和と物くゝ人の名を宮

市廻りの小ハおのくかゝとう

金を名しく弱を積雪

松風のもんくと吹くれまを

持よりあるとを 芳

湯ハの代まくは物ちゝ捕

当一足ゝ弟ちを 彩

中国市の時ゝ赤ちゝ人

病ゝなれて 女房とり拾

なさほ嫁しひ月の八ゝ

何の樓ゝ牧ちゝ

二の丸代先ゝやく金屏風

面をあれさくはんの弱日

ちゝくと茶屋の食を喰仕

四上いのく 何也 万 黛

氏神の弟と聖よ 拾ひ

当屋と紙ゝ伸ゝ青柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄四年九月吉日　　路通

昌房　芭蕉　正秀　鈴江　乙州　登好　珍頃　磐子　里東　探志　游力　香　亟　好　東　力　子

芭蕉

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 正秀
[illegible] 来
[illegible] 半残
[illegible] 土芳
[illegible] 破
[illegible] 芳
[illegible] 残
[illegible] 園風
[illegible] 猿雖
[illegible] 破
[illegible] 風
[illegible] 芳
[illegible] 風
[illegible] 龍象
[illegible] 史邦
[illegible] 野水
[illegible] 羽紅

元禄三年　　凡兆

市中は物のあはれや夏の月

あつ〳〵と門くゝ入る夕涼　芭蕉

二番咲れも軍さを稽古哉　去来

[illegible] 一牧　北枝

[illegible]　来

[illegible]　北枝

[illegible]　来

[illegible]　北枝

[illegible]　蕉

[illegible]　来

[illegible]　北枝

[illegible]　蕉

[illegible]　来

[illegible]　北枝

[illegible]　蕉

[illegible]　来

五六年生木つけ角ゝ緒　北
足袋ゝゝまこに墨ほこの反　蓋
追ゝて平き出る代刀　松　末
てゝ出ちう前のあこ河さう　北
ゝ傳ます出ちをひの責屋敷　蓋
てゝ出ゝゝゝいつゝゝて　末
こゝゝゝと草鞋を作る月磨　北
磨と　ひる　ゝ　ゝ　ゝ　蓋
そのすゝゝこゝひ責ゝる乗前　末
ゆゝゝゝ蓋のあゝあ半樋　北
草菴ゝ磨く乗てハ千やゝう　蓋
今蛙ゝゝ撰集乃さ　走
さ反ゝゝゝ品ゝゝゝる走ゝさ　北
浮世乃果ハ皆小町有　蓋
何ゆゝう粥すゝゝゝ源氏　末
四日ゝゝゝハ屋さ板敷　北
まひゝゝ弐這ゝる おのゝけ　蓋
かゝゝゝゝゝ色代稲むさ　走

所汁桶の事やゝ乃ゝ拓ゝ　元　北
あゝゝ乃ゝ青海ゝる秋　芭蕉
形ゝ歳ゝゝゝる月影ゝ　野水
ゝゝ蛙ゝ十乃さゝ　去来
ゝ代伊ゝ知と拓ゝゝ子回ゝ　蓋
営代ゝゝゝゝゝ雪埋　北
京生ゝゝ絶ゝ身の弱　来
慶那ゝ三拓ゝ雪ゝゝ　ゝ
ゆゝゝゝゝゝ喰ハ凡かゝる　北
蛇乃口ゝゝとかゝて元味よき　蓋
そのゝゝひゝゝハ高ゝて休む景　ゝ
延ゝハゝゝ有ゝゝ代ふゝ　来
金稼ゝゝゝゝゝ弟のやゝさ　蓋
あゝ沢品ゝゝの有ゝの月　北
町内乃稼ゝゝゝ月やゝき　来
何ゝゝゝゝゝ義ゝゝゝ　ゝ
茶ゝゝ義ゝハ西会ゝ衣ゝゝ　蓋
ゝゝゝの別ゝ草ゝ春ゝゝて　北

久しう山ゐ申候廿日十三
業さ候家の梅をとうとう名
色色のあまたあるわれも
旅の紀をしたしう吟しおく　来
まさ成しき世の事をたて　芭蕉
何をとひ笑ひ　猶乃なく　あ
夕月夜草の黄初の白菊ちる　芭蕉
人をつれ乃しおりの水　北
うとつよく自慢いさをを接ぶん　あ
又も太事式部をれ出す　来
地より田のまをきてきれ　北
かぎ成乃やしろハ能き社なり　芭蕉
おうの鹿参をく名手すて　来
西乃やうう式部を迅速　あ
立有のまを路の文ばたをよ　芭蕉
さまろくあるを蘭のそのうん　北
糸櫛後了をいの咲よろ　来
春を三月　喫乃ろろ　あ

寄の砧と刷ぬとれ　玄来
一時の風の本の系ちつ侯　芭蕉
股川の紀うあるく川こえて　凡兆
たぬきをくとすを條張の弓　史邦
まいくを笠遠うる宵の月　芭蕉
人をもくれをと　名和　乃梨　来
かきるを墨除おうしく秋寄く　邦
てきこころまきありやすれ笠袋　北
何事も是云の門ハ志河ちり　来
里ん人初くを弁　貝ふく　芭蕉
ほつまさる去年れ孫さのふくく　北
笑蓉のおしのをくくとちる　邦
吸柏ハ先お来されしやん　芭蕉
三里あまりの乃ゝえける　来
山去も盧同勇茶りまて　邦
ちしまを つきこ侯月の脚夜　北
苦ろう花を華ゐる多水　秋　蓮
ひとり西しを今紀乃脇さち　来

いちとせは二日の物も喰て金　兆
雪けはさむきに菅を八雲る宿乃小かゝ　邦
火とゝのゝに菅を八雲る宿れ寺　未
ほとゝぎすに皆明仕舞さり　意
痩骨のすさ起出るちゝ形よ　邦
陽を加をゝく車引こむ　兆
うきくを枳殻垣すりくちをん　意
いまや別乃月ちゝ　未
せハしけは梯をゝく流をきちゝ　兆
思ひ切るゝ花くるひ見よ　邦
寄天は有明月の船ゝけ　未
湖水の秋乃比良の初雪　意
朱の戸や菅麦盗まれて寒を淺　邦
布子若男ふ風の久ゝ毛　兆
押合て赤くハ又立川をまゝ　意
ゝられ雲乃すゝ赤き宵　未
一樽鞦川ゝるゝ　兆
枇杷乃古葉ふ本芽も芽ゝ　邦

今日年ゝ年ゝ年ゝ初ゝれ　ゝゝ
笠ハ仕付ゝる麦のあゝ士　新六
油寒を買人中抵の吐味ゝ　酒雀
汁乃麦ゝゝ秋の風ちな　愚水
宿の月奥ゝ八保と古たゝみ　鬼象
先ユ先ゝる牧屋の弱梅　爭
文ゝの侍家中ゝ惰をゝく　の
焼焦ゝゝゝる出ゝゝ酒ス　義
稼ゝむ垂の義ゝ酒ゝ　六
帰礎とのゝる赤ゝの入口　素
ゝゝゝ蹴ハめゝゝ　柔
松迫のけゝく物乃喰他　め
青写ゝゝゝる祇の麦生　義
ゝゝ萩の風抵ゝ立　六
八月ハ旅ゝゝゝる小幅　金
焼やゝ城の雲ゝ代赤をけ　素
ゝ郷を留を色の赤陰ゝ　ゝ
ゝゝも雪ゝ雪の卯ゝ　意

要法く侍者の家をなつかや　六
富士の雪と酒は碎ける　素
さみだれと綿一ぬきの葉そ　白
数点あるを走り水乃上　白
灯の新めつゝ　しき申ぬ　白
山伏ゝ　おほ次山とある　六
四更ハ鮎の白鷺ゆきかく　素
庭自ようの家簾の女房　素
いり松る意も立川つき蕎麦　白
路毫をかゝくゝ生る　素
有明ハ昨ぬつ畫の小方丈　六
舌乃ぬつ　ぬ孤　衡　素
一さとちとまきなゆるき　素
篠ふとゝ　松　形の坂　白
宗旨のうさ　ぬ　白
茶　向　ぬ　ちむ百性の家　六
花の夫まつへ　ゝ　形　素
七十乃雲の　ぬ　素　素

月見ぬる　ぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　芭蕉
庭乃柳の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
公補める　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
別業　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
尾張の国　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
函嶺　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
家菓　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
西の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
一む　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
這う　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
ぬそ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
ね　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
月代　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
桔梗　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
伝ち　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
大立　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　白
三日　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素
ハツ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　素

[illegible]

[illegible]

[illegible]

町中乃者居八赤くきんとて
吟と志てこ志ハ世ゆかしつまり
草足袋ゆ地者踏きき秋の雪
俄んあう乃古ゆ屋の月
ゆ乃早苗と宇ハるつゝや
家ゆ行うゝも知敢ず未乱
少俄と切くかけ方閑の
隠とゝ待てなゝ世世中
付合ゝ者ゝ者ゝて者あう
ち箕と くゝと雲後なう
幸ゆて和歌ハ秋ゆあうゝ
あてこ先くゝ乃ゝ乃ゝ乃
狭揚くゝ乃ゝ者ゝ者ゝ人の脊
道ゝ行ゝ者ゝ鶴ゝ刈
不断ゝ川ゝ雑新の常世俳市
ごとうえこむ土方のへつの
弟子ゝ年ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ花ゝ
鶴ゝ乃ほうゝ者ゝ者ゝ妙

葉 あ
書 書
葉 葉
ら ら
葉 葉
葉 葉
世 世
葉 葉
あ あ
葉 葉
書 書
葉 葉
あ あ

州かゝみやの田乃うゝの秋の雲
者ゝうゝ田ゝう蛾ゝ乃ゝ乃ゝ花行
衣ゝ川鶴ハ百代宮ゝて 長萩
糞 仲 市ゝ乃ゝ ゝこの 者ゝ ゝ 小親
古戦場月も鶴ゝ世ゝ乃ゝ 花葉
志ゝ乃ゝ ゝ 送ゝ乃ゝ 家者の道 葉
さ ゝ世ゝの ゝ乃ゝ 花ゝ 行
者ゝとあゝ乃ゝて 行者ゝ ゝ 入江 葉
葉 芋者ゝ 者ゝ 花ゝ 親
あ 俄ゝ乃ゝ 者ゝ 乃ゝ

西堂

保ゝ ゝこの 鶴ゝ ハ ゝ 者の上 昌房
場ゝ ゝかゝ ゝ 新 鶴乃 楠 淡 正秀
小俄 な 四俄 ゝ ゝ 紀初 ゝ 卧言
鶴ゝ と 吟 な と 自 俄乃 者 探志
情ゝ ゝ 者ゝ 世 ゝ 海の 海 者ゝ 游力
ゝ川ゝ く 戴 く ゝ こ 方の 髪 平 野任
花の 張 鶴 第 世 満 附 ゝ ん 去 未
満ゝ ゝ ゝ 行の あゝ 者 者

[illegible]乃耳[illegible]野竜
[illegible]乃小陽[illegible]芹[illegible]
[illegible]拾菓[illegible]の月　支邦
[illegible]実の[illegible]の[illegible]
老僧乃帽子[illegible]秋の季　景桃
[illegible]撮[illegible]源左[illegible]
六月[illegible]乃二[illegible]素牛
[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の徳　之道
[illegible]の日
二[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]乃禅
[illegible]公[illegible]
[illegible]芹[illegible]赤土
[illegible]
[illegible]
[illegible]

支梁亭口切　[illegible]

口切[illegible]の庵[illegible]
笋[illegible]乃[illegible]　支藥
山[illegible]乃[illegible]　[illegible]
秋の野[illegible]乃[illegible]　[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
雑乃[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]乃柳[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ここ俺の作はめうあるよ麦の未　蕉
今ちやかし　今川乃家　六
稲ゆく浸撰の限を流泉　生
又は稲うゆ　四畝ゆうゆ　蕉
朝霧は富ひうたる蓬の色　益
ちこし　角はかるる麦の粉　雀
るオを作ちき井戸の粉　益
月蝕う鬢とあり　撰生　六
穴吊して砧あくうゆ　益
先稜うくれ生し　の知風　蕉
うちと門乃屋は香俺て　六
る訳雪はかうさきを見う　生
今ちやう草羽織と見つき方　蕉
奉切乃絡り雑しかうる　末
ゆ　絡は本やうはゆる　雀
月やあうう出る二月　朝日　六
うち西は伊勢の　蛇乃見神　益
初樟あやうう川の上　蕉

貞享四年卯夏

ほうこうこう実と西へうこうこう　如行
うこうこう　呼ほうこうこうこう乃れ　叩端
蓋ちきれうけうは蓋と揃ちきて　困水
人乃たうこうこうこうの数なう　邑直
うれは土歪のかうん歪　捆歪
梅本のうは今うう　故　東亥
和すこうこう律はうれうこうこう　工山
登うこうれくいつも　春　林揖
簾作の虎と居こうれ若ちこう　枕草
はうこうこう大うちはいはゆるやう　行
鍋車は四金こうれはゆるやう　楷
物はのはうけつちこう　水
意こうちと言中ねとれうれ　春
かうこうこう文の神うこう宣たこう　系
陸明の用ハ序うこうこうこう　友
一里まてちち表林乃表　山
我むと結こうて用は山こうこう　揖
意こうこう寺俺のうこうこうこう　楷

あるくかれたるまくさ雨　行
徒手後ろに極乃やうに　反
持てハるかと撫れ行やうに　柔
非人も都そろそろ　雨
振りあれ乞ひねぬ鶴のいとなく　水
又すとまて一寸ハ　行
を枝の成るに沿ひ西瓜の白い　山
やうにいはて陸と見えし　紫
まくてもとれるさねと月明り　寿
やくすくすきさ杖のあるを　揖
去年なるのそりうち青の中　陽
を新の杖とつくんてれく　水
お十二月さ行れ伸きくき　紫
ふ浄とうける重孫の法　寿
歌表もまくまこほくおちる茶　反
沿ひくまこ伝傷者の小宅　山
六位のれと古敗ハは松花えん　行
邪やれもくロなうく　揖

叩　端

お行　牧

色しれ茶とひとつの白い花
杖の初たとる表乃杖　桐紫
まんの数ゑる四月めけ入て　色蓬
みちれ早さて人のとうえを　東反
春うるま笑ひも抜と立ようを　工山
あけ海人ふの付ふやら　雨水
山ふうて行と春人ふ住居ん　牧手
きしなとけて竹夜し村　端
かつきる点ゑおくく一むく　紫
おれ髪をんうちやんさる　寿
結ひして重をれんを　反
ふちとおくて新代やド　山
面つの間表乃ハれ　水
双とけ行月れとをう　紫
来はくハ行とおとしの主ハか　寿
まさ目のさあれ眉のちくれ　反
表をちハ陸棒ちをちきたう　端
高ゆく陸乃高く年久を　水

山 高
紫 陽
俗

山
反
紫 陽
水
反
探
紫 陽
反
和
紫 陽
言

知足
相業
叩鴨
業言
自然
如風
安信
童夜
煮
足
紫
陽
夜
足
風
紫
言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面倒ノ所ヲ伺ヒ候ハヾ　なを　角
小性　仕　ゆく〳〵　暮　礼乃中　雪
丁寧ニ　ものよ　〳〵　なを　枝　ゑら　蕉
補ヒ　ものそ　ものに　ヒ　戸の　極　疏　来
云ハん　ものゑ　ゑら　ゑの　雪　手　雪
橋やセ　ー　ー　市　代　タ　ウ　け　角
冥加　ものく　茅　ヒ　ゆ　ま　お　衛　元　来
毛　繩　を　ー　ー　く　ゆ　西　の　ち　ま　蕉
こち　あく　る　庇　乃　乃　ふ　十　万　郡　角
日ハ　何　ゆ　ゆ　そ　破　さ　ゑ　の　月　雪
きり　〳〵　い　そ　そ　き　ゆ　の　情　ゆ　蕉
莖　ゑく　や　ー　ー　さ　角　乃　蕉　此　来
いと　そ　そ　西　郎　の　復　戸　の　片　蕉　雪
四ツ　乃　郡　ゑ　ゑ　ま　ゑ　ま　ま　郡　の　子　角
象　ほ　ま　む　ま　ー　ー　ま　の　甘　青　来
ゆ　ハ　何　ま　ま　け　め　津　の　有　ま　蕉
縄　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　角
柳　の　ま　ま　の　ま　く　ま　ま　ま　ま　雪

西の手ハ小柳とさてや蜘の網　芭蕉
（蜘蛛あり門人子真角　芭蕉）
為ニ　刈ニ　ゆ　ま　乃　況　嵐雪
堅　面　義　の　ハ　縄　も　ゆ　る　代　ゆ　ま　に　共角
山のあなく　ゆ　ゆ　続　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　芭蕉
象　ト　に　月　毛　乃　弱　の　有　明　く　雪
ゆ　勢　ゑ　や　く　ま　ま　ま　く　く　の　雲　角
傍　軍　ま　角　カ　の　お　ま　ま　ま　ま　ま　芭蕉
常　不　ゑ　ハ　ま　ま　全　の　ま　一　ま　雪
藤　ゑ　ハ　も　ゆ　流　亀　代　南　ま　大　蕉　角
豆　苅　仕　義　ゑ　青　る　ま　の　東　風　芭蕉
間　さ　ん　秋　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　雪
剃　き　や　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　角
負　軍　切　者　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　芭蕉
ゆ　く　ゑ　ゑ　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　雪
ん　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　角
竜　乃　雑　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　芭蕉
一　ま　彼　岸　乃　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　雪
日　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　角

けて永徐ようそうを人弱法師
四聲南ようしゃ仏ぶつ
紙をば よくくと 返かと
てうちん見まる町 乃入口
女房呼ぶ家屋の主をあやまて
言田乃唱花はなむらと
莫宅家の孫六被られ
面一なき風乃石蒼
牛式ぶ乃牛はセうう市の中
白湖 枝雪乃西金六天
ようと 枝はへ月の雪和漢
つくくうりと略乃西
鋼ようは四ぶ歩着ぶ
ようと 返 表
一ふいわ宅をとて
みこ 風くい 神乃つあ
栄ぶと赤者を枝一 者の後
三 人弟ぶ者の白

雪 道 角 雪 道 角 雪 道 角 雪 道 角 雪 道 角 雪

上巳垂迹

赤日ハ神をうるやうに
雪は土民乃 仏和 納 乃 乃
あひうる芦の 表 乃 元 兆
雪の枝ける 表 乃 参 玄 乃
なおまるおの月の郭人 素 概
秘ふ実形 古 乃 つ 乙 湖
実へき宮紀の田あうて 史 郭
宮迫くなる 玄 哉
あ ふ 石
奉ぶ 乃 遠 爺
白川や家屋の主をかい
たと尤を前 様 本 兆
院 ふ やと れ く 紙 業 ぶ
猫乃ふのこのころ 枕
上ハうみトハ吉とと 爺
これ宮法乃ふ西を 石
言 業 ふ 西 を 春
者の海迫ようう 鋼の後 焼 郭

元禄六年

水雪より海い雄をあそぼくそ　元峯
白波ふみ　芦鶴なり　芭蕉
中汲の碑も万年摂さけて　徑堂
月代徑は当拾ふ　峯
橋咲ハ楼の実こぼるゝを　蕉
板乃詩ゝ円屋きぬる　堂
簾戸は油屋あるゝ日代稲を　里東
天ゝみるゝ　拾子の時　袁
泛かゝゝ土蕉ゆゝ穿ゝ　峯
沖倉ゝて鎌倉を角川　東
門くゝ的自の傍をくゝ　堂
延踏なとゝ　ほ乃翁　峯
山信をきゝ　ほ乃原　袁
梨ゝ地　雪久き児のさけ嶺　堂
名月は雪井の橋代一さけ　東
今とゝ代茶を　脊石蘇さ　蕉
あゝ茶くゝ雪久　仏連太蕉　堂
夜ハかゝゝぬ　を編乃人宿　東

兆　来　枕　翁　式　末　邦　枕　石　夜　邦　兆　翁　来　汁　枕　邦

頃その度を様変りて
あ〜むと云ふ菖蒲打重
きんと云ふ姫小袖の物思ひ
恵の色とりなりや 嬉伯
降代の西の吉野山田錦て
京洛ハ伊吹うく宝き秋風
夕月よ荷葉を花を歌の言
舞なり〜まちる 笑の中人
麦食の寄〜ぬ食をとりて
池利川拾 川舟の袖
帷子ハ風と流〜き中小性
明日ハ逸事を黄昏の文 真角
笑〜き変代ひを似さくら
人目うるゆと門をくる珠数
一点に地を権現乃おさう
猫小日代さ次変そ〜めく
雪ハ無沢の君よ〜ぬ峠
冬夏 恨を 泉 神乃間